

## 〔編集後記〕

◆最近一年間のめまぐるしい国際的諸事件のなかで、最大の問題は、なんといってもヴェトナム戦争をめぐるそれであった。ヴェトナム戦争は、すでにさまざまな国際的事件がわれわれに要求していた平和共存についての再検討の必要を、もっとも鋭く提起した。あえて誤解を恐れずにいえば、平和共存の問題は、人類の未来という展望のもとに今日の世界を考えると、経済、政治、文化、軍事のあらゆる問題がそこに集中される中心の問題であろう。われわれはすでに前号で、柳田氏の「転換期の平和共存」とセルジョ・セグレの「中国の爆弾のあとで」によって、平和共存への新しい接近を試みあるいは紹介したが、本号では、坂本氏の「国際関係

の構造モデル」とロマーノ・レッダの「ジョン・ドクトリンと共存」によって、この方向への努力を続行した。

◆勝部氏と山口氏とのものは、昨年夏、それぞれヘルシンキ世界平和大会への参加およびヴェトナム戦争反対運動のうずまくアメリカへの旅行の際の報告であり、また、「一九六五年度ソ連科学アカデミー世界経済国際関係研究所研究作業計画」は、勝部氏によってもたらされたものである。

◆柳田氏と竹浪氏によって翻訳されたクズネツォフの「日本——その世界市場における競争力」とオタ・シクの「社会主義的商品関係の問題によせて」、「チェコスロヴァキアにおける経済計画化と管理」は、いずれもユニークな興味ある論文だと信ずる。(KTY)

## 国際関係研究

### 第八—九号

昭和四十一年一月二十日 印刷  
昭和四十一年一月二十五日 発行

編集・発行人

勝 部 元

発行所

桃 山 学 院 大 学  
国 際 関 係 研 究 室

大阪市阿倍野区昭和町中三—五  
電話大阪⑥六二—一一八一番  
(内線 一三番)

印刷所

真美印刷株式会社  
京都市上京区千本下立売西入ル  
電話八二—二一三六番(代)